

## 長野県知事の意見

### [全般、事業計画]

- 1 環境影響評価の実施に当たっては、住民から寄せられた意見等に配慮するとともに、積極的な情報公開に努めること。
- 2 「ごみ処理基本計画」におけるごみの減量化・資源化の一環である、生ごみの分別回収・資源化について、組合を構成する2市1町において統一した取り組みを一層推進すること。
- 3 ごみ収集ルートを選定及びその通行にあたっては、必要により道路管理者と協議を行う等、地域住民の安心・安全が得られるよう努めること。
- 4 対象事業実施区域は土石流警戒区域に含まれるため、地形・地質の調査結果等に基づき、防災対策について考慮すること。

### [大気質]

- 5 大気質の1時間値予測において、プルーム・パフ式で計算した濃度の最大値については、マスコンモデル等で計算した最大値との比較による予測評価を行うこと。
- 6 大気質の調査にあたっては、風向風速等気象の状況について地域ごとに代表性のあるデータを活用し、実施すること。
- 7 大気質の予測評価にあたっては、対象事業実施区域と諏訪湖岸との高低差や気温低下による逆転層の発生時において、適切な予測評価が行えるよう調査を実施すること。
- 8 微小粒子状物質の環境影響評価について、可能な調査の実施を検討すること。

### [騒音、振動]

- 9 ごみ収集車の時間的な集中により騒音に係る環境影響が予想される場合は、保全対策を講ずること。

- 10 ごみ収集車に加え、焼却後の埋立物を搬出するトラックの騒音・振動についても予測評価を行うこと。
- 11 収集ルート上の騒音・振動に対して、路面の状況を考慮した予測評価方法を検討すること。

#### **[土壌汚染]**

- 12 土壌汚染については、環境基準を満足させることを前提としながら現状を悪化させない趣旨の環境保全目標を設定すること。

#### **[地形・地質]**

- 13 工事における地形改変による影響に関しては、具体的な規模を把握した上で、適切な予測評価を行うこと。

#### **[植物、動物、生態系]**

- 14 対象事業実施区域付近には分水嶺があり、植物の多様性が高いところであるため、水系に係る要素にも着目し、動物の生息又は植物の生育状況や生態系の調査において特徴の把握に努めること。
- 15 夜間照明による動植物への影響を極力低減するよう、施設設計において配慮すること。  
また、調査実施にあたっては、動物相の多様性に着目するといった点や生態系の上位種に焦点を絞るといった方法について検討すること。

#### **[景観・触れ合い活動の場]**

- 16 やまびこ公園やその周辺が、景観や触れ合い活動の場という観点で重要な場所であることを考慮し、調査頻度や調査内容を見直すとともに、やまびこ公園利用者など多くの人の意見を反映させた予測評価を行うこと。  
また、工事中においても、囲い等により景観について配慮すること。